

わが国の特別支援学校におけるスヌーズレンの授業 のあり方をめぐって

—「スヌーズレン成立のための基本要件」と特別支援学校のスヌーズレンの授業の全国調査結果を踏まえて—

企画者	姉崎 弘 (常葉大学教育学部)
司会者	井上和久 (大和大学教育学部)
話題提供者	姉崎 弘 (常葉大学教育学部)
	藤澤 憲 (和歌山県立和歌山さくら支援学校)
指定討論者	江口隆子 (神奈川県立座間養護学校)
	井上和久 (大和大学教育学部)

KEY WORDS: 特別支援学校、スヌーズレンの授業、スヌーズレン成立のための基本要件

【企画趣旨】

本学会において、これまで「わが国における「スヌーズレン教育」の導入と推進—肢体不自由特別支援学校の重度・重複障害児の教育を中心に—(2012年)、「わが国におけるレジャー、教育・療育、セラピーとしてのスヌーズレンの実践及び研究の推進—障害者支援施設・特別支援学校・療育センター・小規模事業所・家庭での実践報告を中心に—(2013年)、および「わが国におけるレジャー、教育・療育、セラピーとしてのスヌーズレンの実践及び研究の推進(2)—スヌーズレンの理念と基準および特別支援学校・障害者支援施設での実践の分析—(2015年)をテーマにしてスヌーズレンシンポジウムを開催してきた。このようにわが国のこれまでの肢体不自由特別支援学校や障害者支援施設等におけるスヌーズレン実践の広がりから、その現状と課題を中心に議論を重ねてきた。

そこで本シンポジウムでは、議論の対象を特別支援学校に絞り、海外の基本文献等に基づいた「スヌーズレン成立のための基本要件」を明らかにし、さらに「スヌーズレンの授業に関する全国調査結果」に関する基調講演を踏まえて、学校現場や研究者の立場から話題提供と討論を行うことで、わが国のこれからの特別支援学校におけるスヌーズレンの授業のあり方に示唆を与えるものを探っていきたい。

【話題提供者の趣旨】

1. 「スヌーズレン成立のための基本要件の提案と肢体不自由特別支援学校におけるスヌーズレンの授業に関する全国調査結果を踏まえた提言」(姉崎 弘)

まず姉崎が主となって翻訳した創始者たちの世界初の著書『重度知的障がい者のこちよい時間と空間を創るスヌーズレンの世界』(福村出版、2015年)と Krista Mertens の著書の翻訳書『スヌーズレンの基礎理論と実際—心を癒す多重感覚環境の世界—(第2版復刻版)』(学術研究出版/ブックウェイ、2015年)、さらに世界の ISNA-MSE が公認した「スヌーズレンの定義」と「介助者のためのガイドライン」(2011年)を基にして姉崎がまとめた「スヌーズレン成立のための基本要件」を述べ、次いで2012年に姉崎が実施した肢体不自由特別支援学校におけるスヌーズレンの授業の全国調査結果から、「今日の肢体不自由特別支援学校におけるスヌーズレンの授業の取組みの現状と課題」について話題提供を行いたい。特に、わが国では1990年代から「スヌーズレンは、治療法や教育法ではない」と言われ続け、学校現場に深い影響を与えているが、今日の創始者たちや世界の識者の見解、さらにわが国の現場教師たちの意見を踏まえて、この問題について整理したいと考える。

2. 「和歌山県の特別支援学校におけるスヌーズレンの授業の現状と課題」(藤澤 憲)

和歌山県内の12校ある特別支援学校の中で2校に備え付けのスヌーズレンルームがあるが、教師間では、「スヌーズレンはレジャーであり、治療法や教育法ではない」との認識が強い。そのため、スヌーズレンが授業として展開されるのではなく、子どもの実態把握の方法の一つとして活用されるにとどまっているケースが多いのが現状である。筆者は、スヌーズレンが子どもの発達支援の有効的な手段の一つであると捉え、備え付けのスヌーズレンルームの環境において、2事例(重度の肢体不自由児と軽度の知的障害児)の教育実践に取り組んだ。その結果、肢体不自由児の事例では、対象児は動く電飾を一定時間追視できるようになったり、教師の声かけに表情良く応じることができたりと、発達的な成長が見られた。また、知的障害児の事例では、回を追う毎に対象児は教師に話しかける機会が増え、その後の音楽や体育等の授業にも落ち着いて取り組めるようになった。スヌーズレン環境のもと、子どもと教師のやりとりを中心に数量的分析結果を交えながらスヌーズレンの授業の有効性及び可能性について述べる。

【指定討論者の趣旨】

1. 「スヌーズレン教育の新たな可能性」(井上和久)

最近の理論解釈、実践報告から、今後の特別支援学校現場でのスヌーズレン教育の新たな可能性について、話題提供者からの意見を基に探っていきたい。

2. 「日本の特別支援学校の現状を踏まえたスヌーズレンの授業のあり方について」(江口隆子)

今日の日本の特別支援学校の現状を踏まえつつ、スヌーズレンの要件を損なわずに授業の中でスヌーズレンをどのようにして活かしていくか、またスヌーズレン環境を整えていくか、話題提供者からの意見を基に討論していきたい。
(文献)

- 1) Hulssege, Y & Verheul, A (1987) “Snoezelen – another world”. Rompa, UK. 姉崎 弘 監訳 (2015) 『重度知的障がい者のこちよい時間と空間を創るスヌーズレンの世界』福村出版
- 2) 姉崎 弘 (2013) スヌーズレンの誕生と歴史. スヌーズレン研究 1, 5-12.
- 3) 姉崎 弘 (2015) 肢体不自由特別支援学校における重度・重複障害児のスヌーズレンの授業に関する全国調査. 日本特殊教育学会第53回大会発表論文集 P5-14. (ANEZAKI Hiroshi, INOUE Kazuhisa, FUJISAWA Ken, EGUCHI Takako)